

平成 30 年度
編入学 小論文試験問題
(100 点)

千葉県立保健医療大学 健康科学部
看護学科

諸注意

1. 問題冊子は、表紙を除き 2 頁である
2. 問題冊子及び解答用紙の印刷が不鮮明などの場合には、手を挙げて監督員に知らせること
3. 解答は、必ず黒の鉛筆（シャープペンシルも可）で記入すること
4. 試験終了後、問題冊子および下書き用紙は持ち帰ること

【問題 1】 下線部①を和訳しなさい。

著作権の関係上、省略します。

出典 : Kay Hetherly. Tokyo Wonderland and Other Essays on Life in America and Japan. NHK Publishing. 2006, p26-29. 抜粋・一部改変

(問題は次のページに続きます)

【問題 2】 図表に基づき、わが国の 30～40 歳代男性の肥満の現状について説明したうえで、その対応策についてあなたの考えを 600～640 字で日本語で述べなさい。

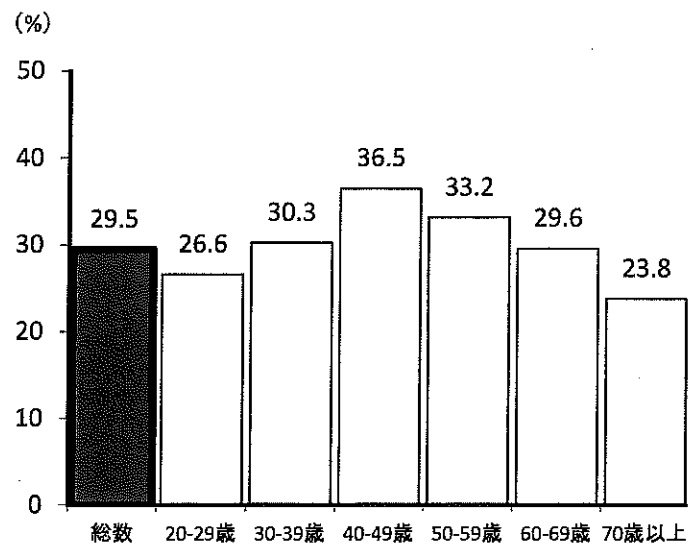


図1 肥満者 (BMI \geq 25kg/m²) の割合 (男性・20歳以上・年齢階級別)

出典：厚生労働省「平成 27 年国民健康・栄養調査」, 17 頁, 改変

表1 生活習慣病の予防や改善のための食生活の実践 単位: %

	30～39歳男性	40～49歳男性
いつも気をつけて実践している	4.8	10.6
気をつけて実践している	39.8	35.2
あまり気をつけて実践していない	44.6	48.6
全く気をつけて実践していない	10.8	5.6
わからない	—	—

問A 生活習慣病の予防や改善のために、あなたは、ふだんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますか。この中から1つ選んでください。

出典：農林水産省「食育に関する意識調査報告書 (平成 29 年 3 月)」, 44 頁より作成・改変

表2 生活習慣病の予防や改善のための食生活を実践をしない理由 単位: %

	30～39歳男性	40～49歳男性
面倒だから取り組まない	34.8	36.4
病気の自覚症状がない	34.8	50.6
生活習慣を改善する時間的ゆとりがない	32.6	26.0
自分の健康に自信がある	23.9	15.6
生活習慣を改善することがストレスになる	15.2	16.9
病気になってから治療をすればよい	17.4	1.3
生活習慣を改善する経済的ゆとりがない	8.7	1.3
社会的な環境(運動施設など)が整っていない	8.7	7.8
あてはまるものはない	10.9	2.6
わからない	—	2.6

問B (上記の問Aで「あまり気をつけて実践していない」「全く気をつけて実践していない」と答えた方に)ふだんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していない理由として、この中からいくつでも選んでください。

出典：農林水産省「食育に関する意識調査報告書 (平成 29 年 3 月)」, 46 頁より作成・改変